



令和7（2025）年度

基盤研究（C）研究計画調書 作成のポイント

●研究計画調書は、科研費の交付を申請しようとする者が、公募要領に基づいてあらかじめ当該研究計画に関する内容を記入し、独立行政法人日本学術振興会あてに提出するものであり、日本学術振興会の科学研究委員会における審査資料となるものである。
については、下記の点に留意した上で、誤りのないように作成すること。



留意点

昨年度からの変更点に
注意して作成してください

●必ず今年度の様式を使用する。

※昨年度から各項目の内容や順序に変更点がございます。

●指示書きや囲み枠、ページ表記等ヘッダー部分の表記を削除しない。

●各頁で定められた頁数に従って作成し、ページの追加・削除をしない。

●各項目の指示に従って作成をした結果、空白の頁が生じた場合、空白のページを削除しない。

※様式が異なると正しく審査されません。

ページ数・各頁の表記（年度など）を確認してご提出ください。

●提出前に、PDFファイルに変換された研究計画調書の表示内容に不備（文字や図表等の欠落、文字化け等）がないか確認する。

公募要領で定めるルールに基づいて、研究代表者が責任を持って作成してください。

※各項目について説明や注意点を元に
間違いのないよう注意して記載してください。

機関番号	研究種目番号	応募区分番号	小区分	整理番号
00000	00	0	00000	0000

令和X(20XX)年度 基盤研究(C) (一般) 研究計画調書

令和XX年XX月XX日
1版

新規

研究種目	基盤研究(C)	応募区分	一般			
小区分	①					
研究代表者 氏名	(フリガナ)					
	(漢字等)					
所属研究機関						
部 局	②					
職						
研究課題名	③					
研究経費 (千円未満の 端数は切り 捨てる)	年度	研究経費 (千円)	使用内訳(十円)			
			設備備品費	消耗品費	旅費	人件費・謝金
	令和X年度					
	令和X年度					
	令和X年度		④			
	令和X年度					
	令和X年度					
	総計					
開示希望の有無	審査結果の開示を希望する ⑤					
研究計画最終年度前年度応募	—					

① 小区分

2018年度公募より、審査単位が「細目」から「小区分」「中区分」「大区分」に見直されています。詳細は公募要領に掲載されている「審査区分表」で必ず確認をして入力をしてください。

科学研究費助成事業データベース（KAKEN）を活用して、過去にどのような研究課が、どのような分野で採択されているのかを参照して、ふさわしい審査区分を検討することも有効です。

〔KAKEN〕 <https://kaken.nii.ac.jp/>

② 部局・職

研究代表者のe-Radに登録されている情報が自動表示されます。
研究計画書作成時点での所属情報が正しく表示されているか確認すること。

誤りがある場合には、e-Radへの登録内容の変更を行ってください。

〔e-Rad〕 <https://www.e-rad.go.jp/>

③ 研究課題名

研究内容を簡潔に表す課題名にすること。
専門的なキーワードは避けて、一般的かつ分かりやすいものにすること。

point

40字以内のタイトルで、
「何のために（目的）」
「どのような手法により（方法）」
「何を達成するのか（対象）」
の3点を盛り込むことを心がける。

例：「〇〇のための、新〇〇法による、新規〇〇〇〇〇の開発」

- ×略語の使用は極力避け、使用が避けられない場合は簡潔な説明を付す。
- ×既に多くの研究がなされていそうな一般的な研究課題名は避ける。
- ×曖昧な記述は避ける。

④ 研究経費

立案する研究計画を遂行するために、真に必要な経費を計上すること。
正確な金額を計上することで審査の際に「よく検討され、練られた研究計画である」との評価につながります。

⑤ 開示希望の有無

次回の申請に役立つ為「審査結果の開示を希望する」を選択すること。

本欄で「検査結果の開示を希望する」を選択すると、不採択になった場合に審査結果を確認することができます。

氏名（年齢）	所属研究機関 部局 職	学位 役割分担	令和X年度 研究経費 （千円）	エフ ォ ー ト （%）
00000000 (00) ①研究代表者 氏名	② 所属研究機関・部局・職	③ 学位 ④ 役割分担		⑤エフ ォ ー ト （%）
00000000 (00) ⑥研究分担者 について				
00000000 (00)				
※各項目について説明や注意点を元に 間違いのないよう注意して記載してください。				
合計 00 名		研究経費合計		

① 研究代表者氏名

② 所属研究機関・部局・職

研究代表者のe-Radに登録されている情報が自動表示されるので
研究計画書作成時点での所属情報が正しく表示されているか確認すること。

③ 学位

〈記入例〉

医学部・・・「博士（医学）」
「学士（医学）」

看護学部・・・「博士（看護学）」
「学士（看護学）」

薬学部・・・「博士（薬学）」
「学士（薬学）」 など

④ 役割分担

〈記入例〉

「〇〇実験の実施」「〇〇の解析」

※ 代表・分担などの曖昧な記載は避けてください。

1人での研究の場合は「研究全般」、研究代表者の場合は「統括」など

- なるべく具体的な役割を記入すること。
- 研究代表者及び研究分担者がどのように協力して研究を行うのか、それぞれの関連性が分かるように研究代表者が研究分担者の分を含めて入力すること。

⑤ エフォート (%)

〈 記入例 〉

20% 30% など

教育・研究・診療活動等を含めた全仕事を100%として、そのうち本研究の実施に必要な時間の配分率（%）を入力すること。

「全仕事時間」とは教育活動等を含めた実質的な全仕事を指す為、エフォートの割合が高くなりすぎないように気を付ける。

⑥ 研究分担者について

研究分担者の追加には、「研究分担者承諾依頼」が必要となります。

承諾は研究分担者および研究分担者が所属する研究機関から得る必要があります。科研費電子申請システム上での研究分担者承諾依頼の操作方法については、以下の「科研費電子申請システム 研究者向け 操作手引き」をご参照ください。

<https://www.shinsei.jsps.go.jp/kaken/docs/manual1ska-ga.pdf>

また、あわせて研究分担者に依頼をした旨を連絡して下さい。

1 研究目的、研究方法など

本研究計画調書は「小区分」の審査区分で審査される。記述に当たっては、「科学研究費助成事業における審査及び評価に関する規程」（公募要領参照）を参考にする。

本研究の目的と方法などについて、4頁以内で記述すること。

冒頭にその概要を簡潔にまとめて記述し、本文には、(1)本研究の学術的背景や本研究の着想に至った経緯、研究課題の核心をなす学術的「問い」、(2)本研究の目的および学術的独自性と創造性、(3)関連分野の研究動向と本研究の位置づけ、(4)本研究で何をどのように、どこまで明らかにしようとするのか、(5)本研究の目的を達成するための準備状況、(6)本研究がどのような国際性（将来的に世界の研究をけん引する、協同を通じて世界の研究の発展に貢献する、我が国独自の研究としての高い価値を創出する等）を有するかについて具体的かつ明確に記述すること。

本研究を研究分担者とともに行う場合は、研究代表者、研究分担者の具体的な役割を記述すること。

（概要）

移動・削除しないこと。

作成に当たって留意すること

○本留意事項の内容を十分に確認し、研究計画調書の作成時にはこのテキストボックスごと削除すること○

留意事項①：

1. 以下の内容を熟読・理解の上、研究計画調書を作成すること。

科研費は、研究者の自由な発想に基づく全ての分野にわたる研究を格段に発展させることを目的とし、豊かな社会発展の基盤となる独創的・先駆的な研究を支援します。

科研費では、応募者が自ら自由に課題設定を行うため、提案課題の学術的意義に加え、独自性や創造性が重要な評価ポイントになります。このため、「基盤研究」、「若手研究」及び「研究活動スタート支援」の研究計画調書様式では、学術の潮流や新たな展開などのような「学術的背景」の下でどのような「学術的『問い』」を設定したか、当該課題の「学術的独自性や創造性」、「着想に至った経緯」、「国内外の研究動向と本研究の位置付け」はどのようなものか、などの記述を求めています。

審査においては、総合審査又は二段階書面審査における審査委員間の議論・意見交換等により研究課題の核心を掴み、学術的な意義や独自性、創造性など学術的重要性を評価するとともに、実行可能性並びに研究遂行能力も含めて総合的に判断します。

科研費に応募するに当たっては、上記に留意の上、公募要領や審査基準、様式の説明書き等を十分に確認し、審査委員に学術的重要性等が適切に伝わるように研究計画調書を作成してください。

（本文）

留意事項②：

1. 作成に当たっては、研究計画調書作成・記入要領を必ず確認すること。
2. 本文は11ポイント以上の大きさの文字等を使用すること。
3. 各頁の上部のタイトルと指示書きは動かさないこと。
4. 指示書きで定められた頁数は超えないこと。なお、空白の頁が生じても削除しないこと。

○本留意事項の内容を十分に確認し、研究計画調書の作成時にはこのテキストボックスごと削除すること○

1 「研究目的、研究方法など」欄の注意点

- 様式は必ず今年度のものを使用すること。

※昨年度より各項目の内容や順序に変更がありますので、ご注意ください。

- 「1 研究目的、研究方法など」欄は 4 頁以内 で作成すること。

このページ数は、（１）～（５）の記載指示項目を収めるのに最適なページ数として指定されたものです。余白を残さないように、なるべく調書書面の最後まで記載すること。

- 空白の頁が生じた場合、空白の頁を削除しないこと。

- 余白設定（上20mm、下20mm、左25mm、右25mm）は絶対に変更しないでください。
余白設定を変更すると、審査書類として印刷された際に、文字等の欠落の恐れがあります。

- モノクロ印刷（グレースケール）された研究計画調書で審査されるため、図表やチャート、写真等は、必ずモノクロ印刷で鮮明に見える色彩にてご作成ください。

※様式が改変されていたり、昨年度のものを使用
してしまっている場合正しく審査されません。
必ずご確認の上、ご提出ください。

（概要）

- 審査委員が初めに目にする「第一印象」となる、最も重要な部分であるため、簡潔にわかりやすくまとめ、10行程度で記載すること。
- 審査委員に十分理解してもらい、その後の内容をスムーズに読んでもらえるような内容を心がけること。
- 略語の使用は極力避けること。
避けられない場合は、専門外の審査委員の為に簡潔な説明を加えるなどすること。

point

- ・申請者が対象としている研究のこれまでの背景（3文以内）
- ・何が問題なのか？（1文程度）
- ・何を明らかにするのか。（2文程度）
- ・どのような応用・展開が可能なのか。（1文程度）

合わせて10行程度で記載する。

（本文）

- 本研究の目的と方法などについて、指示書きの（1）～（6）にそって
どれがどの項目に該当するか、わかりやすいように項目名を記載し記述すること。

- （1）本研究の学術的背景や本研究の着想に至った経緯、研究課題の核心をなす学術的「問い」
- （2）本研究の目的および学術的独自性と創造性
- （3）関連分野の研究動向と本研究の位置づけ
- （4）本研究で何をどのように、どこまで明らかにしようとするのか
- （5）本研究の目的を達成するための準備状況
- （6）本研究がどのような国際性（将来的に世界の研究をけん引する、協同を通じて世界の研究の発展に貢献する、我が国独自の研究としての高い価値を創出する等）を有するか

※下線部が変更点

※昨年度より各項目の内容に変更がある為、必ず確認し記述してください。



(1) 本研究の学術的背景や本研究の着想に至った経緯、
研究課題の核心をなす学術的「問い」

- ・ 研究テーマの背景を書くとともに、申請者がこのテーマに関して行ってきた研究成果についても触れておく。
- ・ いま何が問題なのか、解明すべき課題は何かなどの学術的「問い」を書く。
- ・ 着想を得るに至ったきっかけや申請者ならではのオリジナルな理由を、自身の経験や社会背景を交えて書く。

(2) 本研究の目的および学術的独自性と創造性

- ・ 研究テーマの中心となる研究目的を簡潔に書き、本研究で何をしようとしているのかをまとめる。
- ・ この研究を行うことがなぜ重要なのか、この研究によって将来的にどのような応用や展開が考えられるのかを書く。

独自性の例：

- ・ 「研究代表者らのこれまでの研究成果を基盤とした研究である」
- ・ 「研究代表者だからできる研究である」
- ・ 「研究代表者にしかできない研究である」
- ・ 「従来の研究で未解決の問題に新たな視点で取り組む研究である」
- ・ 「重要な課題であるが、これまでに取組・報告のない研究である」 など

創造性の例：

- ・ 「関連学問分野の新展開に貢献することが期待される」
- ・ 「新たな産業・医療・サービスの創成への貢献が期待される」 など

(4) 本研究で何をどのように、どこまで明らかにしようとするのか

- ・ 研究をどのように実験や調査を進めていくのか具体的な計画や方法を書く。
- ・ 「年度ごと」あるいは「初年度と次年度以降」に分ける。

(5) 本研究の目的を達成するための準備状況

- ・ 実験や調査の予備的なデータや、保有している資料や試料など、現在の研究の準備状況を具体的に書く。
- ・ 採択された場合にすぐに研究に着手できること、実現可能性が高いことをアピールする。

※削除しないこと。

【1 研究目的、研究方法など（つづき）】

基盤研究（C）（一般）2

ヘッダーが正しいか必ず確認してください。

頁数を確認してください。

※削除しないこと。

【1 研究目的、研究方法など（つづき）】

基盤研究（C）（一般）3

ヘッダーが正しいか必ず確認してください。

頁数を確認してください。

※削除しないこと。

【1 研究目的、研究方法など（つづき）】

基盤研究（C）（一般） 4

ヘッダーが正しいか必ず確認してください。

頁数を確認してください。

削除しないこと。

基盤研究（C）（一般） 5

2 応募者の研究遂行能力及び研究環境

応募者（研究代表者、研究分担者）の研究計画の実行可能性を示すため、(1)これまでの研究活動（主要な研究業績を含む）、(2)研究環境（研究遂行に必要な研究施設・設備・研究資料等を含む）について2頁以内で記述すること。
「(1)これまでの研究活動」の記述には、研究計画に関連した国際的な取組（国際共同研究の実施歴や海外機関での研究歴等）がある場合には必要に応じてその内容を含めること。また、研究活動を中断していた期間がある場合にはその説明などを含めてもよい。

○本留意事項の内容を十分に確認し、研究計画調書の作成時にはこのテキストボックスごと削除すること○

※留意事項：

1. 研究業績（論文、著書、産業財産権、招待講演等）は、網羅的に記載するのではなく、本研究計画の実行可能性を説明する上で、その根拠となる文献等の主要なものを適宜記載すること。
2. 研究業績の記述に当たっては、当該研究業績を同定するに十分な情報を記載すること
（例として、学術論文の場合は論文名、著者名、掲載誌名、巻号や頁等、発表年（西暦）、著書の場合はその書誌情報など。）
3. 論文は、既に掲載されているもの又は掲載が確定しているものに限って記載すること。

○本留意事項の内容を十分に確認し、研究計画調書の作成時にはこのテキストボックスごと削除すること○

テキストボックスごと削除すること。

2 「応募者の研究遂行能力及び研究環境」欄の注意点



- 様式は必ず今年度のものを使用すること。

※昨年度より各項目の内容や順序に変更がありますので、ご注意ください。

- 「2 応募者の研究遂行能力及び研究環境」欄は 2 頁以内 で作成すること。

このページ数は、(1)～(2)の記載指示項目を収めるのに最適なページ数として指定されたものです。余白を残さないように、調書書面の最後まで記載すること。

- 空白の頁が生じた場合、空白の頁を削除しないこと。

- 余白設定(上20mm、下20mm、左25mm、右25mm)は絶対に変更しないでください。
余白設定を変更すると、審査書類として印刷された際に、文字等の欠落の恐れがあります。

- モノクロ印刷(グレースケール)された研究計画調書で審査されるため、図表やチャート、写真等は、必ずモノクロ印刷で鮮明に見える色彩にてご作成ください。

(本文)

- 研究遂行能力及び研究環境について、指示書きの(1) (2) にそってどれがどの項目に該当するか、わかりやすいように項目名を記載し記述すること。

(1) これまでの研究活動 (主要な研究業績を含む) ※下線部が変更点

(2) 研究環境 (研究遂行に必要な研究施設・設備・研究資料等を含む)

※昨年度より各項目の内容に変更がある為、必ず確認し記述してください。



(1) これまでの研究活動（主要な研究業績を含む）

- ・ これまでの研究活動や研究業績を書いて、研究遂行能力を示す。
- ・ 研究活動や研究業績（発表論文、著書、産業財産権、招待講演など）は、網羅的に記載するのではなく本研究計画の実行可能性を説明する上で、その根拠となる文献等の主要なものを適宜記載すること。
- ・ 研究業績の記述に当たっては、当該研究業績を同定するに十分な情報を記載すること。
(例として、学術論文の場合は論文名、著者名、掲載誌名、巻号や頁等、発表年（西暦）、著者の場合はその書誌情報など）。
- ・ 論文は、既に掲載されているもの又は掲載が確定しているものに限って記載すること。

(2) 研究環境（研究遂行に必要な研究施設・設備・研究資料等を含む）

- ・ 研究遂行に必要な研究施設・設備・研究資料を含めて記載すること。
- ・ 産前産後の休暇及び育児休暇の取得や、介護休暇の取得など、研究活動を中断していた期間がある場合は、その事情を本欄に記載してもよい。

※削除しないこと。

【2 応募者の研究遂行能力及び研究環境（つづき）】

基盤研究（C）（一般）6

ヘッダーが正しいか必ず確認してください。

頁数を確認してください。

削除しないこと。

基盤研究（C）（一般） 7

3 人権の保護及び法令等の遵守への対応（公募要領参照）

本研究を遂行するに当たって、相手方の同意・協力を必要とする研究、個人情報の取扱いの配慮を必要とする研究、生命倫理・安全対策に対する取組を必要とする研究など指針・法令等（国際共同研究を行う国・地域の指針・法令等を含む）に基づく手続が必要な研究が含まれている場合、講じる対策と措置を、1 頁以内で記述すること。

個人情報を伴うアンケート調査・インタビュー調査・行動調査（個人履歴・映像を含む）、提供を受けた試料の使用、ヒト遺伝子解析研究、遺伝子組換え実験、動物実験など、研究機関内外の倫理委員会等における承認手続が必要となる調査・研究・実験などが対象となる。

該当しない場合には、その旨記述すること。

3 「人権の保護及び法令等の遵守への対応」欄の注意点



●様式は必ず今年度のものを使用すること。

※昨年度より項目の内容に変更がありますので、ご注意ください。

●3 「人権の保護及び法令等の遵守への対応」欄は 1 頁 で作成すること。

(本文)

- ・人権の保護及び法令等の遵守への対応が必要となる研究計画の場合、本大学の定める指針や法令、行政が定める指針を遵守して研究を行うことを記載すること。
- ・また学内の各種委員会での承認が必要な実験については、その承認を受けて行うことを明記すること。
- ・法律や指針、委員会名等の名称に注意して記載すること。

※法律の改定や名称変更がありますので、現時点での正式な名称を記載してください。
(次ページを参考にしてください。)

〈例文〉 ◎以下の例文を参考に記載してください。

.....

【該当しない場合】

本研究は○○○○○○○○○○（理由）のため該当しない。

【人を対象とする場合】

本研究では人に対して○○○を行うため、
「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」を遵守し、
本学研究倫理委員会の承認、研究機関の長である学長の許可を得た上で実施する。
また、取得した○○は必ず個人を特定できる情報を削除した上で使用する。

【動物実験を行う場合】

本研究では動物実験を行うため、「動物の愛護及び管理に関する法律の一部を改正する法律」、
「実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準」、
「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針」を遵守し、
本学医学部・看護学部動物実験専門部会の承認、学長の許可を得た上で、
「大阪医科薬科大学 動物実験規程」に則って実施する。

【遺伝子組換え実験を行う場合】

本研究では遺伝子組換え実験を行うため、
「遺伝子組換え生物等の使用等の規制による生物の多様性の確保に関する法律」、
「研究開発等に係る遺伝子組換え生物等の第二種使用等に当たって執るべき
拡散防止措置等を定める省令」を遵守し、本学医学部・看護学部生物安全管理専門部会の承認、
学長の許可を得た上で、「大阪医科薬科大学 遺伝子組換え実験安全管理規程」に則り実施する。

【病原体等を扱う実験を行う場合】

本研究では遺伝子組換え実験を行うため、
「遺伝子組換え生物等の使用等の規制による生物の多様性の確保に関する法律」、
「研究開発等に係る遺伝子組換え生物等の第二種使用等に当たって
執るべき拡散防止措置等を定める省令」を遵守し、
本学医学部・看護学部生物安全管理専門部会の承認、学長の許可を得た上で、
「大阪医科薬科大学 遺伝子組換え実験安全管理規程」に則り実施する。

【名称一覧】 参考

※法律の改定や名称の変更に注意して記載してください。

委員会

- 大阪医科薬科大学研究倫理委員会
- 大阪医科薬科大学動物実験委員会
- 大阪医科薬科大学生物安全管理委員会

法律

- 動物の愛護及び管理に関する法律の一部を改正する法律
- 遺伝子組換え生物等の使用等の規制による生物の多様性の確保に関する法律

基準

- 実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準

指針

- 人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針
- 研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針

規定

- 大阪医科薬科大学 動物実験規程
- 大阪医科薬科大学 遺伝子組換え実験安全管理規程

省令

- 研究開発等に係る遺伝子組換え生物等の第二種使用等に当たって執るべき拡散防止措置等を定める省令

削除しないこと。

基盤研究（C）（一般） 8

4 研究計画最終年度前年度応募を行う場合の記述事項（該当者は必ず記述すること（公募要領参照））

本研究の研究代表者が行っている、令和7（2025）年度が最終年度に当たる継続研究課題の当初研究計画、その研究によって得られた新たな知見等の研究成果を記述するとともに、当該研究の進展を踏まえ、本研究を前年度応募する理由（研究の展開状況、経費の必要性等）を1頁以内で記述すること。
該当しない場合は記述欄を削除することなく、空欄のまま提出すること。

研究種目名	課題番号	研究課題名	研究期間
			令和 年 度～令和 7 年度

当初研究計画及び研究成果

令和7（2025）年度
になっているかご確認ください。

※該当しない場合も削除せず 空白のまま 提出してください。

前年度応募する理由

①

②

事項	金額
----	----

[illegible]

③

設備備品費、消耗品費の必要性

「研究経費とその必要性」欄の注意点（1）

「研究経費とその必要性」のページは数量、単価、金額を入力し、「再計算」をクリックすると、金額が自動計算され、研究経費や使用内訳に反映されます。

直接経費の入力単位は千円単位となっていることに注意すること。

①設備備品費

- 税込20万円以上の機器
（※ソフトウェアは高額であっても「消耗品費」となるので注意。）

例：〇〇（ブランド名等）ノートパソコンSR（12.4型）
〇〇検査装置 〇〇（品番など）

- 税込3万円以上の図書
（※図書を購入する場合は、ある程度内容が判明するような表現で記載すること。）

例：〇〇関連図書

②消耗品費

- 税込20万円未満の物品

薬品名、実験用動物名、ガラス器具等、具体的な品名がわかるようになるべく品目ごとに分けて記載すること。

例：〇〇実験関係試薬、〇〇関係ガラス器具類、実験用動物（〇〇）
ソフトウェア〇〇、〇〇ライセンス更新料

- 税込3万円未満の図書（雑誌）

③設備備品費、消耗品費の必要性

- ・研究経費の内訳（消耗品費・設備備品費）を入力し、その内容の研究計画における必要性・概算根拠について入力すること。
- ・研究計画のいずれかの年度において、「設備備品費」が当該経費の90%を超える場合及び「消耗品費」で特に大きな割合を占める経費がある場合には、当該経費の研究遂行上の必要性についても入力しなければならない。

「研究経費とその必要性」欄の注意点（２）

妥当性を証明するため
詳細な記載が必要◎

研究経費の使用目的が妥当であり、それが必要であることを明記する必要がある。

詳細な内訳となぜ研究に必要なのかを明記することで、金銭換算の妥当性を検証され審査される。

①国内・海外旅費の明細

研究代表者および研究分担者等の海外・国内出張に係る経費を計上します。
どの程度の期間、どこに行くのか等わかる範囲で詳しく記載してください。

- ①名称（学会名や打ち合わせ名、研究項目名等）
- ②場所（地名、〇〇大学等）
- ③予定日数
- ④人数

例：成果発表 〇〇学会 横浜 〇日間
情報収集 〇〇学会 東京 2泊3日×3人

②人件費・謝金

研究協力者に係る謝金、報酬、資金、給与、労働者派遣業者への支払のための経費等を
事項ごとに記載してください。

人件費・謝金の支出を予定している者の協力時の身分等（特任助教、博士研究員、
博士前期課程学生 等）が明らかである場合にはその点も記載すること。

事項ごとに分かる範囲で人数や期間などを詳細に記載すること。

例：資料整理（〇名×〇カ月 〇〇〇千円）
研究協力謝金（10名×〇時間 〇〇〇千円）

③その他

上記のほか当該研究を遂行するための経費を記載すること。

翻訳・閲覧校閲を業者委託する場合の経費を記載すること。

例：印刷費、通信費（切手、電話など）、
〇〇検査委託、〇〇解析委託

④旅費、人件費・謝金、その他の必要性

- ・研究経費の内訳（旅費・人件費・謝金・その他の明細）を入力し、その内容の研究計画における 必要性・概算根拠について入力すること。
- ・研究計画のいずれかの年度において、「旅費」又は「人件費・謝金」のいずれかの費目が当該年度の全体の研究経費の90%を超える場合及び「その他」で特に大きな割合を占める経費がある場合には、当該経費の研究遂行上の必要性についても入力すること。
- ・上記「事項」欄で計上金額の明細を示しきれなかった場合は、こちらの箇所に算出根拠となる情報を丁寧に記入すること。
- ・その他本文に記載の研究内容との関係を意識して、研究遂行に各費用が必要である旨を補足説明すること。

※本欄は PDF ファイルには出力されません

[illegible]

「科研費の応募・受入等の状況」入力画面の注意点



応募中、または受入予定の研究課題があれば記入すること。

※科研費のみならず他の競争的研究等（国外のものも含む）についても入力すること。

科研費の不合理な重複や過度の集中にならず、研究課題が十分に遂行し得るかどうかを判断する際に審査委員が参照するので、正確に入力すること。

※「科研費の応募・受入等の状況」欄の入力方法については、各種目「科研費公募要領別冊（応募書類の様式・記入要領）」に詳細が記載されておりますので、ご参照ください。

【日本学術振興会 HP 科学研究費助成事業 公募情報】
https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/02_koubo/kiban.html

①2025年度研究経費

令和6年度にご自身が使用する額（分担者に配分する分担金を除いた金額）を記入すること。（予定額でよい。）

分担者がいない場合は令和7年度に使用する全額となる。

②期間全体額

期間全体でご自身が使用する額（期間全体で分担者に配分する分担金を除いた金額）を記入すること。（予定額でよい。）

分担者がいない場合は期間全体でご自身が使用する全額となる。

③エフォート

教育・研究・診療活動等を含めた全仕事を100%として、そのうち本研究の実施に必要な時間の配分率（%）を入力すること。

「全仕事時間」とは教育活動等を含めた実質的な全仕事を指す為、エフォートの割合が高くなりすぎないように気をつけること。

例：20%、30%

④他の研究費と比べて本応募研究課題に応募する理由等

- ・本応募課題との相違点等を記載すること。

例：・本研究は〇〇〇〇〇〇の研究であり□□□□□□の点で異なる。

- ・左記の研究は〇〇〇〇〇〇を検討する課題であり、
本研究の□□□□□□と異なる。

⑤所属組織と役割

- ・研究課題に応募又は受入れるに当たっての所属組織と役職を必ず入力すること。

例：・大阪医科薬科大学・助教
・大阪医科薬科大学・講師 など